

地域における戦争遺跡の複合的・総合的アーカイブと 学習材としての活用[†] —秋田県を事例として—

外池 智*

秋田大学教育文化学部

本研究は、2009-2011年度の採択された科学研究費補助金基盤研究（C）「地域における戦争遺跡の複合的・総合的アーカイブと学習材としての活用」の総括の一部を報告するものである。

本研究では、2007・2008年度の報告を踏まえ、まず現在の全国における戦争遺跡について、特に文化庁を中心とした「近代化遺産総合調査」による取り組みを整理するとともに、全国における戦争遺跡の指定・登録の現状とその類型的分析を試みた。さらに現在は文化財としての指定・登録が全くなされていない秋田県を事例として取り上げ、県下の戦争遺跡を抽出するとともにその類型的分析を行った。また、今回は戦争遺跡を活用した実践的取り組みとして、秋田大学における「社会科巡見」で取り組んでいる実践事例を紹介した。

キーワード：戦争遺跡、複合的・総合的アーカイブ、秋田県

1. 本研究の目的

親や祖父母などの身近な人たちからの「戦争」の語り伝え、すなわち「語り」による歴史（オーラルヒストリー）の伝達は、地域や家庭のいわば市井における歴史教育として戦争学習の重要な一翼を担ってきた。しかし、今日、戦後60年を越える年月を経て、直接の戦争体験をもつ世代が年ごとに減少していくにつれ、そうした身近な人たちからの「戦争」の語り伝えは日々失われつつある。戦争の「語り部」の減少の中、今後の学校教育、とりわけ歴史教育の果たす役割はますます重要である。「ヒト」から「モノ」へ、確実に戦争の記憶や記録、痕跡が移行していく中、体験者の持つリアリティーに迫る理解・共感可能な学習をどのように展開していくのか、これから

の戦争学習の大切な課題である。

こうした現状を踏まえて、本研究では特に学習材としての戦争遺跡に注目してみたい。後に詳述するが、戦争遺跡とは、主に近現代の戦争に関わる遺跡、遺構の事である¹。本研究では、2007・2008年度の報告²を踏まえ、まず現在の全国における戦争遺跡について、特に文化庁を中心とした「近代化遺産総合調査³」による取り組みを整理するとともに、全国における戦争遺跡の指定・登録の現状とその類型的分析を試みる。さらに現在は文化財としての指定・登録が全くなされていない秋田県を事例として取り上げ、県下の戦争遺跡を抽出するとともにその類型的分析を行う。また、今回は戦争遺跡を活用した実践的取り組みとして、秋田大学における「社会科巡見」で取り組んでいる実践について報告したい。

2012年2月15日受理

[†]Utilization as a complex and comprehensive archive of the war-related sites in the region and learning materials

— Akita Prefecture as a case study —

*Satoshi TONOIKE, Faculty of Education and Human Studies, Akita University, Akita

2. 全国における取り組み

(1) 戦争遺跡の保存

戦争遺跡（戦跡, War-Related Sites）とは、主に近現代の戦争に関わる遺跡、遺構の事であり⁴、さ

らに「戦争遺跡保存全国ネットワーク」によれば、「近代日本の侵略戦争とその遂行過程で、戦闘や事件の加害・被害・反戦抵抗に関わって国内外で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構や跡地のこと⁵⁾とされている。具体的には、以下に挙げるようなもので、非埋没・埋没資料を問わず次の8種類に分類されている。

戦争遺跡の種類

類型	内容
①政治・行政関係	陸軍省・海軍省などの中央官衙・官庁、大本営、師団司令部、連隊本部などの地方官衙・官庁、陸軍病院、陸軍学校、研究所など
②軍事・防衛関係	軍事的な要塞（堡壘・砲台）、高射砲陣地、陸海軍の飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、ガマなどの洞窟陣地、特攻隊基地、待避壕、掩体壕（飛行場の格納庫）、戦車壕、試射場、監視哨（空襲に備えての敵機の監視台）、爆弾・毒ガスの埋納地など
③生産関係	陸軍造兵廠、航空機製作工場などの軍需工場、経済統制を受けた工場、地下軍需工場、鉱山跡など
④戦闘地・戦場関係	沖縄諸島・硫黄島などの戦闘が行われた地域、東京・大阪・名古屋などの空襲被災地、広島・長崎の原爆被災地、爆弾の墜落地など
⑤居住関係	外国人強制連行居住地、防空壕、捕虜収容所、満州開拓村など
⑥埋葬関係	陸海軍墓地、捕虜墓地、忠魂碑（戦死者の記念碑）など
⑦交通関係	軍用鉄道軌道、軍用道路など
⑧その他	航空機の墜落跡、奉安殿（天皇の「御真影」を祀る社）、戦争に関わる学校、学童疎開所、二宮金次郎像、軍・労務慰安所、戦争忌避地など

・戦争遺跡保存全国ネットワーク編『日本の戦争遺跡』（平凡社新書、2004年）、24-23頁、十菱駿武・菊池実編『しらべる戦争遺跡の事典』（柏書房、2002年）、15-17頁、十菱駿武・菊池実編『続しらべる戦争遺跡の事典』（柏書房、2003年）、17-18頁参照。

(2) 文化庁による戦争遺跡調査と指定・登録文化財

①文化庁による戦争遺跡調査

原爆ドーム（広島市）の世界遺産登録に先立ち、

1995年には「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準」が一部改正（文部省告示第24号）された。幕末から明治初年までとされてきた史跡指定の対象が、第二次世界大戦終結時までには拡大し、政治、経済、文化、社会などあらゆる分野における重要な遺跡が史跡指定の対象となったのである。こうした文化財指定基準改正を受け、文化庁文化財部記念物課は「近代遺跡の調査等に関する検討会」を設けて（委員は10名）、「近代遺跡調査実施要項」を定めている。

この要項によれば、「1. 対象とする時期」は「幕末・開国頃から第二次世界大戦終結頃までとする⁷⁾とされ、「2. 対象とする遺跡の分野区分」は下記の11に区分されている。戦争遺跡に関するものは、基本的に「⑨政治（立法、行政、司法、外交、軍事、政治運動等）」として区分されている。

「近代遺跡」の分野区分⁸⁾

項目	詳細
経済	①鉱業、②エネルギー産業（鉱業を除く.）、③重工業、④軽工業、⑤交通・運輸・通信業、⑥商業・金融業、⑦農林水産業
社会	⑧社会（生活様式、都市計画、保健・衛生、福祉、社会運動等）
政治	⑨政治（立法、行政、司法、外交、軍事、政治運動等）
文化	⑩文化（学術、芸術、教育、情報伝達等）
その他	⑪その他（上記の①～⑩に属しない分野）

・戦争遺跡保存全国ネットワーク編『日本の戦争遺跡』（平凡社新書、2004年）、150頁より作成。

そして、この要項に基づき、1996年度から3年間、同庁より各都道府県教育委員会が委託を受けて、近代遺跡の所在地や保存状況の調査が行われ、1998年には約6,000件が報告された。2002年に公表された「近代遺跡（戦跡）の所在調査一覧」では、43都道府県から544件（幕末・明治維新期の24件を含む）の戦争遺跡が報告されている。この544件は、さらに「近代遺跡の調査等に関する検討会」により審議され、全国116件がAランク⁸⁾（我が国の近代史を理解する上で欠くことのできない遺跡）として報告された。同検討会は、さらに詳細調査対象として51件をリストアップしている⁹⁾。2002-2005年の詳細調査では、遺跡分布地図、測量図、証言・資料収集、学

術調査を終えたが、報告書編纂は遅れ、『近代遺跡調査報告書(9)政治・軍事』の編纂は現在進められている最中である¹⁰ (2011年7月現在、文化庁に直接確認による。「鉾山」部門だけが2004年に刊行済)。

②現在(2011年7月現在)の指定・登録文化財

国や県、各市区町村による文化財としての指定・登録¹¹は、1990年の「沖縄陸軍病院南風原壕群20号」(沖縄県南風原町)の町指定を皮切りに、2011年7月現在で30都道府県にわたり、国指定文化財21件(11.2%)、県指定文化財15件(8.0%)、市区町村指定文化財79件(42.0%)、国登録文化財57件(30.3%)、市区町村登録文化財13件(6.9%)、北海道遺産¹²・市民文化資産¹³3件(1.6%、2008年度より計上)の合計188件(前年比13件純増)が指定・登録されている¹⁴(「資料1 全国の指定・登録戦争遺跡類型化」参照)。各指定・登録文化財では、2011年現在188件の指定・登録の内、市区町村指定文化財が79件(7件増)で最も多く、全体の4割以上を占めている。都道府県別では、北海道が24件と最も多く、その内訳は国指定2件、県指定5件、市区町村指定14件、国登録2件、道遺産1件である。全24件の内17件が屯田兵に関わる遺跡で、7割以上を占めている。次は千葉県の19件(2件増)で、その内訳は県指定1件、市区町村指定16件(2件増)、国登録2件である。全19件の内12件が南房総市の「大房岬要塞群」で6割以上を占めており、全て「②軍事・防衛」関係の遺跡である¹⁵。3番目は東京都の16件(3件増)で、その内訳は国指定1件、市区町村指定5件(1件増)、市区町村登録が10件(2件増)である。豊島区(例えば鍋木久一家旧蔵軍事郵便文書)や江東区(例えば竹橋事件処刑場跡)など、近年登録された市区町村登録文化財の増加が特色である。4番目は沖縄県の15件(1件増)で、全て市町村指定文化財である。国や県の指定ではなく、全て市町村指定文化財であることに特徴がある。前述した1990年に全国で初めて町指定を受けた「沖縄陸軍病院南風原壕群20号」(沖縄県南風原町)も含まれている。5番目は鹿児島県と京都府の14件で、鹿児島県の内訳は市町村指定2件、国登録12件である。全14件の内8件が瀬戸内町に代表される小学校の「奉安殿」で6割近くを占めている。京都府の内訳は、国指定10件、国登録4件である。舞鶴市の海軍兵器廠弾丸庫などの武器庫の指定の増加が特色的である。

さらに、こうした指定・登録文化財を前述した8つの類型で整理して類型別に見てみると、全188件の内、やはり「②軍事・防衛」関係が68件(36.2%、3件増)で最も多く、次が「⑧その他」で28件(14.9%、1件増)、「①政治・行政関係」が26件(13.8%、4件増)、「⑤居住」関係で24件(12.8%)である。最も多かった「②軍事・防衛」関係の都道府県別では、千葉県の15件、京都府の10件、北海道の9件の順で多く、中でも千葉県では前述した「大房岬要塞群」(南房総市)が、京都府では「舞鶴市海軍兵器廠」の武器庫関係が、北海道では陸軍や屯田兵関連遺跡が多くを占めている。続く「⑧その他」の28件では鹿児島県が9件で最も多く、その内訳は前述した通り瀬戸内町に代表される小学校の「奉安殿」が多くを占めている。「①政治・行政」関係の26件は、全国で平均的に見られるが、4番目の「⑤居住」関係の24件では、北海道、神奈川県が9件ずつで3/4を占めており、北海道では前述した屯田兵関係の遺跡、神奈川県では「逸見浄水場関係遺跡」(横須賀市)が多くを占める。

最後に、こうした文化財の指定・登録別と類型の相関を整理したものが「資料2 指定・登録ごとの戦争遺跡類型別数」である。市区町村指定が79件(42.0%、7件増)で最も多く、国登録57件(30.3%、1件増)、国指定21件(11.2%、1件増)と続く。市区町村指定文化財では、「②軍事・防衛」が39件(3件増)と5割近くを占め、その内訳は、前述した「大房岬要塞群」(南房総市)12件や沖縄県の遺跡群が目立つ。国登録文化財では「②軍事・防衛」と「⑤居住」がともに15件で最も多く、特に後者では、前述した「逸見浄水場関係遺跡」など横須賀市の遺跡が9件と多くを占めている。国指定では21件のうち「②軍事・防衛」関係が10件、「①政治・行政」関係が5件で、前者では舞鶴市の海軍関係遺跡(9件)、後者では「陸軍第7師団偕行社」(北海道旭川市)、「陸軍第8師団偕行社」(青森県弘前市)、「陸軍金沢偕行社」(石川県金沢市)の偕行社関連遺跡が目立つ。また、こうした国指定文化財の中には、近現代の戦争遺跡登録の火付け役となった「原爆ドーム」(広島県広島市)も含まれる。

3. 秋田県における戦争遺跡とアーカイブ

(1) 秋田県の戦争遺跡

秋田県下の場合、戦争遺跡・資料関係のアーカイブ

ブに関しては、全県的な組織的取り組みはなされておらず、文化財としての指定・登録も全くなされていない状況である¹⁶。また全県を網羅する体系的刊行物も発刊されていない。前掲資料で示した通り、こうした戦争遺跡の無指定・無登録県は全国で17件になり、全国の1/3以上を占める。

そこで、以下の様な文献を手掛かりにして、秋田県下の戦争遺跡をリストアップしてみた。

- ・秋田県下各市町村誌
- ・秋田県教育委員会編『秋田県文化財調査報告書第218集 秋田県の近代化遺産－日本近代化遺産総合調査報告書－』（秋田県教育委員会、1992年）
- ・秋田県教職員組合平和教育推進委員会編『平和教育読み物資料集』第2集（秋田県教職員組合平和教育推進委員会、1990年）
- ・秋田県教職員組合平和教育推進委員会編『平和教育読み物資料集』第3集（秋田県教職員組合平和教育推進委員会、1994年）
- ・秋田県教職員組合編『戦争と教育』（無明舎、1981年）
- ・野添憲治・簾内敬司編『戦争の中の教師たち－秋田の太平洋戦争史2－』（秋田書房、1978年）
- ・野添憲治「戦争の記憶を訪ねて」『秋田魁新報社』（2009年7月27日～8月18日連載）
- ・「戦禍の証人 戦争遺跡を歩く」『朝日新聞 秋田地方版』（2009年8月8日～18日連載）
- ・野添憲治『秋田県における朝鮮人強制連行』（社会評論社、2005年）
- ・進藤孝一著『協和町の鉱山』（1994年）
- ・東雲飛行場を語る会『資料・能代飛行場』（能代文化出版社、1996年）
- ・土崎空襲関連文献（詳細は後述）
- ・花岡事件関連文献（詳細は後述）

これらの文献から抽出した戦争遺跡を、8つの類型で整理したものが「資料3 秋田県の戦争遺跡類型化」である。秋田県下の戦争遺跡として33件（細目72件）が抽出でき、各市町村ごとの内訳は以下の通りである。

まず秋田市では8件（細目21件）（「歩兵第17連隊関係跡地（3件）」「土崎空襲関係遺跡（13件）」「旧東北パルプ秋田工場跡地」「旧東北肥料秋田工

場跡地」「宮田又鉱山跡地」「満蒙開拓青少年義勇軍慰霊碑」「佐竹義曉公銅像」「赤十字救護員記念像」）、男鹿市では4件（細目10件）（「船川事件関係遺跡（5件）」「なまはげ石段朝鮮人強制労働跡地」「元船越小学校御真影奉安殿」「B29遭難事故関係（3件）」）、能代市では2件（細目4件）（「東雲飛行場関係遺跡（3件）」「旧海軍輸送機不時着慰霊碑」）、大館市では3件（細目17件）（「花岡事件関係遺跡（15件）」「元有浦国民学校奉安殿」「忠犬ハチ公像」）、鹿角市では2件（細目3件）（「尾去沢鉱山捕虜収容所跡（2件）」「銚子第二発電所隧道工事跡」）、小坂町では1件（「小坂鉱山跡」）、大仙市3件（「旧角間川国民学校奉安殿」「加才信夫句碑」「中沢下防空壕」）、仙北市では2件（細目5件）（「田沢湖姫観音」「生保内発電所関係施設（4件）」）、美郷町では1件（「明田地野飛行場跡」）、湯沢市では1件（「湯沢雄勝戦没者慰霊碑」）、横手市では1件（「館合村集団生活所」）、由利本荘市では3件（「第十次宮城由利開拓団満州開拓の碑」「軍事保護院傷痍軍人秋田療養所跡」「石沢絆の茂里『絆のさくら記念碑』」）、にかほ市では2件（「日中戦争・太平洋戦争戦没者慰霊碑」「秋田造船象潟工場跡」）である。

(2) 秋田県の戦争遺跡の類型化

8つの類型別で見ると、資料3の通りで、「⑤埋葬関係」が最も多く21件（29.2%）、次が「③生産関係」で17件（23.6%）、3番目が「④戦闘地・戦場関係」で10件（13.9%）である。具体的内容としては、最も多い「⑤埋葬関係」では、例えば「土崎空襲関係遺跡」の各平和記念碑や慰霊碑、「花岡事件関係遺跡」の友好碑や供養塔などの石碑関係が目立っている。次の「③生産関係」では、「花岡事件関係遺跡」などの鉱山に関連する強制労働関係の跡地や「生保内発電所関係施設」が挙げられる。銃後を支えた鉱業地としての秋田の特色であろう。そして「④戦闘地・戦場関係」では、「土崎空襲関係遺跡」の「JX日鉱日石エネルギー秋田油槽所内被爆倉庫」（以下「被爆倉庫」と略す）のような空襲の痕跡を残す跡地や、「花岡事件関係遺跡」や「船川事件関係遺跡」の中国人や朝鮮人の強制労働関係遺跡が挙げられる。先述したように全国的には「②軍事・防衛」関係が最も多く68件（36.2%、3件増）、次が「⑧その他」で28件（14.9%、1件増）、「①政治・行政関係」が26件（13.8%、4件増）、「⑤居住」関係で

24件(12.8%)であったが、秋田県では「②軍事・防衛関係」は6件、「⑧その他」は9件、「①政治・行政関係」は4件のみである。すなわち、秋田県下の場合、砲台や師団・連隊関連施設といった「②軍事・防衛関係」や、偕行社や連隊本部などの「①政治・行政関係」のような当時の遺構を直接的に残す戦争遺跡ではなく、慰霊碑や記念碑、銃後を支えた生産関係のようないわば間接的戦争遺跡が多いことが指摘できる。

このことは、こうした戦争遺跡を歴史教育の学習財として活用する場合、配慮が必要となろう。すなわち、慰霊碑や平和記念碑などは基本的にこの戦禍でなくなった方を弔うために建立されたものであるが、その主体が誰であったのかによって戦争をとらえる観点が大きく違ってくるということである。例えば、「土崎空襲関連遺跡」における慰霊碑の場合は、米軍による土崎空襲で亡くなった軍人・市民の方々であり、必然的にこの戦争の被害的側面が強調される。しかし、逆に「花岡事件関連遺跡」の場合、この地の慰霊碑は事件によって亡くなった中国人や朝鮮人の方々のためのものであり、強制連行といった事実から加害的側面が明確になるのである。同じ、慰霊碑や記念碑であっても、それがどんな事件と関連し、誰のためのものなのかを考慮する時、その性格が全く違ってくる。実際の学習活動においては、このことを踏まえてこれらの戦争遺跡を活用する必要がある。

(3) 市民運動としてのアーカイブとフィールドワーク

さて、これらの戦争遺跡のアーカイブに関しては、前述したように全県的な組織的取り組みはなされておらず、文化財としての指定・登録は全くなされていない状況である。しかし、市民運動として、日中不再戦友好碑建立実行委員会(1965)が母体となって1971年に発足した「日中不再戦友好碑をまもる会」(佐藤守理事長、奥山昭五代表、富樫康雄事務局長)、そして1975年の土崎港被爆30周年を記念して組織された「土崎空襲被爆市民会議」(高橋茂会長)の二つの団体の活動は突出している。これら二つの団体からは、土崎空襲関係では『はまなすはみた¹⁷⁾(1981年)、『証言・土崎空襲¹⁸⁾(1992年)『新はまなすはみた¹⁹⁾(2002年)が、花岡事件関係に関しては『花岡事件五十周年記念誌²⁰⁾(1995年)や『花岡事件

六十周年記念誌²¹⁾(2005年)などの体系的刊行物も発刊され、構成員によるフィールドワークも積極的に実施されている。例えば、「土崎空襲被爆市民会議」の高橋茂会長は、市内の多数の小中高校に要請され、「被爆倉庫」や「同受難碑」などのフィールドワークを実施しており、筆者が秋田大学で担当している「社会科教育内容学」や「地理歴史科教育内容学」においても度々案内をしていただいている。また、「日中不再戦友好碑をまもる会」においても、2011年10月までに秋田大学、岩手大学や山形県歴史教育者協議会など229団体、6,034人に対して、花岡の地で直接フィールドワークを展開している²²⁾。秋田大学社会科教育研究室でも、2003年度に続き、2010年度にも同団体の全面的な協力により、フィールドワークを実施している。

4. 大館・小坂地区フィールドワーク

ここでは2010年に実施した大館・小坂地区におけるフィールドワークの概要を紹介したい。秋田大学教育文化学部社会科教育研究室では、2年次での「社会科巡見」、そしてそれを踏まえた3年次での「社会科授業づくり演習」を連関させ、身近な地域素材や、地域の教育資源を活用した授業構成演習を実施してきた。花岡・小坂地区のフィールドワークは、この「社会科巡見」として実施したものであるとともに、花岡事件に深く関わってきた「まもる会」の方々の語りをアーカイブするものである。

さて、2010年度の「社会科巡見」は、9月22日(水)から23日(木)にかけて、大館・小坂地区を中心にフィールドワークを実施している。まず22日には「花岡事件」関連のフィールドワークを実施し、そのコースは以下の通りである。松峰(花岡鉦床跡)―中山寮跡(中国人達の寮)・日中不再戦友好碑―共楽館(事件発覚後の拷問・取調べ地跡)―信生寺(当初の遺骨収集所)・花岡川(工事現場)・供養塔(当初の納骨所)・七ツ館(七ツ館事件供養塔)―十瀬野(中国人殉難烈士慰霊之碑)―獅子ヶ森(脱出地)―博物館(『花岡ものがたり』展示地)。次に22日後半には小坂地区を中心に実施し(小坂展望所製錬―鉦山事務所・康楽館)、最後に23日にはその他の大館地区の史跡(小林多喜二生誕碑・生家跡―温泉寺・安藤昌益墓―昌益碑―ハリスト教会)を巡見した。

こうした「社会科巡見」実施に至っては、基本的に学生達が巡見地を選定し、プランニングをすると



＜日中不再戦友好碑での説明＞

ともに、相手先との交渉やアポ取りの実施、また事前学習として巡見地の内容を調べ、それぞれの資料を冊子として作成している。また、巡見が終了してからも、事後学習として実施した巡見の内容を整理し、研究室紀要である『秋田社会討究』に掲載するとともに社会科研究室のホームページにも、その内容を掲載している。このように、本実践では、プランニング—事前学習—「社会科巡見」の実施—事後学習—研究室紀要やホームページへの掲載による総括のサイクルで巡見の実施を参加者全員でトータルにコーディネートする。すなわち、フィールドワークそのものをプロジェクトワークとして実施している。

5. 戦争遺跡の複合的総合的アーカイブ

以上、本研究では戦争遺跡に注目し、「近代化遺産総合調査」の取り組み、その他の戦争遺跡の指定・登録の現状、さらに秋田県を事例として取り上げ、その類型的分析を行った。また、今回は戦争遺跡を活用した実践的取り組みとして、秋田大学における「社会科巡見」で取り組んでいる実践について、大館・小坂地区、土崎地区へのフィールドワークを事例に報告してきた。本研究全体では、さらに戦争遺跡の学校教育における教材としての活用の現状について秋田県を事例に取り上げ、小・中・高校のそれぞれの実践について調査・検討を進めるとともに、戦争遺跡を活用した授業実践の構築を試みている。また前述した様に、戦争遺跡に関連した「語り」のアーカイブについては、花岡事件だけではなく、土崎空襲についても土崎空襲被爆市民会議の高橋茂会長の「語り」を中心にまとめている。

先述したように、1996年に文化庁を中心として開始された「近代遺跡調査」は刊行を待つばかりになり、全国の戦争遺跡の文化財としての指定・登録も着実に増加しつつある。しかし、未だ重要な史跡にも関わらず抜け落ちていくとの指摘も多く、前述した様に、秋田県を含む全国17の県では、文化財として全く指定・登録がなされていないのが現状である。より体系的網羅的な調査とアーカイブが求められる。そして、さらにこうした戦争遺跡そのもののアーカイブのみならず、その戦跡に関わる体験談や「語り」も含めたアーカイブも同時に求められることを指摘したい。戦争遺跡は、実物、有形であるが故に、物言わぬ「モノ」としての戦争のリアリティーを今日に伝えている特色がある。しかし、その戦争遺跡に関わる歴史や様々な事象、ストーリーの語り部がいることで、さらに実感あふれる息づいたものになることも事実である。例えば、前述した花岡事件の場合、まさに拷問の舞台となった共楽館などの戦跡は、小学校5年生の時に実際に花岡事件を体験した岩田一行氏の体験談や「語り」があることで、より実感を持った対象として参加学生に受け止められている。有形のものは指定や登録といった手法でアーカイブされることが可能であるが、こうした無形の体験談や「語り」も含めた複合的・総合的戦争遺跡アーカイブを早急に進める必要がある。

また、こうしたアーカイブだけではなく、そうした戦争体験談や「語り」の継承プログラムも開発を進める必要があろう。前述した様に、秋田県下では、市民運動として、1971年に発足した「日中不再戦友好碑をまもる会」、そして1975年の土崎港被爆30周年を記念して組織された「土崎空襲被爆市民会議」の二つの団体の活動は突出している。前者は、花岡事件に関わる戦争体験の「語り」を継承し、後者は「日本最後の空襲」の一つとも数えられる「土崎空襲」の「語り」を継承してきた。とりわけ学校教育との関わりでは、コミュニティーゲストなどで、多くの子ども達にその体験を語り、平和教育に貢献してきた。しかし、比較的熱心に取り組まれているこれらの会においても、会員の方々の高齢化にともない、今やその存続が非情に危ぶまれているのが現状である。2010度を実施した「社会科巡見」における大館・小坂地区のフィールドワークにおいても、今年度を実施した「地理歴史科内容学」の土崎空襲関連巡見においても、こうした岩田氏や高橋氏達の「語

り」がどれだけ続けられるのか、その存続の危機を痛感した次第である。次世代への戦争体験談や「語り」の継承プログラムの開発が喫緊に求められる。

¹ 戦争遺跡保存全国ネットワーク編『戦争遺跡から学ぶ』(岩波書店, 2003年), 6頁参照。

² 本研究に関わる内容は、2007・2008年の日本社会科教育学会第57・58回全国研究大会(埼玉大学・滋賀大学)で発表し、その内容は、本紀要の第30号(2008年, 13-31頁), 第31号(2009年, 1-18頁)にも掲載している。

³ 「近代遺跡」としての調査は、後述するように1996(平成8)年7月より文化庁文化財部記念物課が中心的に関わっている調査である。これに先駆けて、1990・91(平成2・3)年に同じ文化財部の参事官(建造物)が主導し実施された調査は「近代化遺産」として調査されている。この「近代化遺産」に関わる調査は、実際には、各都道府県の教育委員会が中心となり実施され、報告書もまとめられている。(秋田県教育委員会編『秋田県文化財調査報告書第218集 秋田県の近代化遺産-日本近代化遺産総合調査報告書-』(秋田県教育委員会, 1992年)参照)。本研究で取り上げるのは、前者の「近代遺産」としての調査である。

⁴ 前掲書1, 6頁参照。

⁵ 戦争遺跡保存全国ネットワーク編『日本の戦争遺跡』(平凡社新書, 2004年), 23頁。

⁶ 前掲書5, 150頁参照。

⁷ 文化庁文化財部記念物課編『近代遺跡調査報告書-鉾山-』(文化庁文化財部記念物課, 2002年), 149頁。

⁸ 「我が国の近代史を理解する上で欠くことのできない遺跡をA, 各地域の近代史を理解する上で特に重要な遺跡をB, その他の遺跡をCとする」とされている。(前掲書5, 152頁)

⁹ 菊池 実『近代日本の戦争遺跡-戦跡考古学の調査と研究』(青木書店, 2005年), 15頁, 十菱駿武・菊池 実編『しらべる戦争遺跡の事典』(柏書房, 2002年), 20-27頁参照。

¹⁰ 「『戦跡考古学』に脚光 軍需工場・壕・飛行場など研究 国指定史跡目指す動きも」朝日新聞(2007年8月1日), 29頁参照。

¹¹ 国による登録制度は、1996(平成8)年の文化財保護法の改正により、指定制度を補完するものと

して導入された。登録制は、法令や条例などにより規制が及ぶ指定制とは違い、届出制と指導、助言、勧告を基本とする緩やかな保護措置を講じて所有者の自主的な保護に期待するものである。建造物について先行導入されたが、これは建造物は、①開発の進展に伴う取り壊しの危機に瀕するものが多いこと、②一定の対象物件が把握されていること、などによるものである。建造物以外の有形文化財については、引き続き保護手法の在り方が検討されてきた。いずれにしろ、直ちに既存の指定制度による指定を行うことは困難であるが、放置しておくことと消滅等の可能性が高いことから保護が望まれる状況にあるとの結論から、この文化財保護法の改正において、建造物以外の有形文化財、有形の民俗文化財および記念物にも登録制度が拡充された(文化財保護法第三章第二節第90条, 第132条, 第133条関係, 佐々木利和「登録制度の拡充」文化庁文化財部監修『月刊 文化財五月号』第500号(第一法規, 2005年), 25-28頁参照)。なお、県や市町村レベルでの登録制度は、国に先駆けて導入されているところや未だ導入されていないところもあり、秋田県下では未だ導入されていない。

¹² 北海道遺産とは、北海道に関係する自然・文化・産業などの中から、次世代へ継承したいものとして北海道遺産構想推進協議会が選定した有形無形の財産群である。現在52件が指定されている。1997年4月に、当時の堀達也北海道知事により提唱された「北の世界遺産構想」が始まりで、同年8月に北海道庁内に設置された「北の世界遺産推進方策検討プロジェクトチーム」により1999年5月に発表された報告書によって、北海道遺産構想の枠組みが出来上がった。1999年から2000年にかけて候補を公募し、北海道遺産構想推進協議会(2001年設立)により選定が実施され、同年10月22日、応募総数約1万6000件の中から第1回選定分の25件が決定した。2003年、第2回選定分の候補が公募され、応募総数9107件の中から、翌2004年10月22日に第2回選定分27件が決定している。

¹³ 横須賀市は「市民文化資産指定・補助要綱」(昭和63年7月1日)の第2条において以下のように規定している。(横須賀市HPによる)

「第2条 この要綱において「市民文化資産」とは、文化財保護法(昭和25年法律第214号)、神奈川県文化財保護条例(昭和30年神奈川県条例

第13号)及び文化財保護条例(昭和39年横須賀市条例第41号)の規定により指定を受けた文化財以外のもので、次に掲げるものをいう。

- (1) 有形文化資産 建造物、絵画、彫刻、工芸品その他の有形の文化的所産で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。
- (2) 無形文化資産 演劇、音楽、工芸技術、年中行事その他の無形の文化的所産で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。
- (3) その他の文化資産 史跡、名勝地、動物、植物、地質鉱物で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。」

¹⁴ 第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会(主催戦争遺跡保存全国ネットワーク、2011年8月6-7日開催)配布資料18-19頁参照。2011年7月現在。

¹⁵ 千葉県の場合、この南房総市の「大房岬要塞群」の他、館山市の「海軍航空隊地下要塞赤山地下壕」を代表する戦跡が約50カ所を数え、2002年には市が「平和学習の拠点」を目指し、戦争遺跡の調査研究委員会を作っている。市民運動として、戦跡ガイドのNPOも結成され、市民レベルでのガイドやフィールドワークも盛んに展開されている。「みつめ伝える街角の戦跡 足元の遺産今に生かした『平和学習』で街づくり」朝日新聞(2004年8月14日)、23頁参照)

¹⁶ 秋田県下の戦争遺跡については、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室に直接確認している。とりわけ、先の1996(平成8)の文化庁文化財部による「近代遺跡調査」への報告資料も担当官に確認していただいているが、戦争遺跡としてリストアップされたものは1件もなかったとの確認を得ている。

¹⁷ 土崎港被爆市民会議編『はまなすはみたー土崎空襲のはなし』(秋田文化出版社、1981年)。

¹⁸ 土崎港被爆市民会議、佐々木久春編『証言・土崎空襲』(無明舎、1992年)。

¹⁹ 土崎港被爆市民会議編『新はまなすはみたー語り

つぐ土崎空襲ー』(秋田文化出版社、2002年)。

²⁰ 花岡事件五十周年記念誌編集委員会編『花岡事件五十周年記念誌』(花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会、1995年)

²¹ 花岡事件六十周年記念誌編集委員会編『花岡事件六十周年記念誌』(花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会、2005年)

²² 花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会案内サークル『いしぶみ』No.109(2011年11月10日発行)参照。団体数や参加人数については、直接事務局長の高樫康雄氏に確認している。

Summary

This research is 2009-2011 Auxiliary gold research adopted in fiscal science research (C) in "utilization as a complex and comprehensive archive of the war-related sites in the region and learning materials" part of the summary report.

In this study, 2007-2008 Modernization of legacy general survey based on the report of the fiscal year, first with cultural affairs especially about the war-related sites in the current national efforts to organize at least, tried to present the war-related sites in the country of registration and its typological analysis. More featured registered and designated as important cultural assets was not made at all now Akita Prefecture as an example, went to extract the war ruins of the prefecture with its typological analysis. Also introduced practices working in "social studies fieldwork" in Akita University as a pragmatic approach this time utilizing the war-related sites.

Key words : War-Related Sites, A complex and comprehensive archive, Akita Prefecture

(Received February 15, 2012)

資料1 全国の指定・登録戦争遺跡類型化 (2011年7月現在で188件)

都道府県	所在地	遺 跡	指定・登録	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他
北海道 (24)	札幌市	琴似屯田兵村兵屋	国指定					○			
	札幌市	新琴似屯田兵中隊本部	市町村指定	○							
	札幌市	西岡水源地取水塔	国登録					○			
	旭川市	陸軍第7師団偕行社	国指定	○							
	旭川市	陸軍第7師団騎兵第7連隊覆馬場	国登録		○						
	旭川市	永山屯田兵屋	市町村指定					○			
	江別市	野幌屯田兵第2中隊本部	県指定	○							
	江別市	江別屯田兵大隊本部火薬庫	県指定		○						
	滝川市	滝川屯田兵屋	市町村指定					○			
	滝川市	屯田兵第2大隊第3中隊文書	市町村指定								○
	深川市	屯田兵屋	市町村指定					○			
	深川市	屯田歩兵第1大隊本部	市町村指定	○							
	深川市	屯田兵監の塚	市町村指定		○						
	美瑛市	美瑛屯田兵屋	県指定					○			
	根室市	和田屯田兵村大隊本部被服庫	県指定		○						
	厚岸町	太田屯田兵兵屋	県指定					○			
	室蘭市	輪西屯田兵火薬庫	市町村指定		○						
	士別市	士別屯田兵屋	市町村指定					○			
	北見市	野付牛屯田第4大隊第1中隊本部被服履雜庫	市町村指定		○						
	稚内市	大岬海軍望楼	市町村指定		○						
剣淵町	剣淵屯田兵屋	市町村指定					○				
美瑛町	陸軍演習場塙舎門柱	市町村指定		○							
上富良野町	東中尋常高等小学校御真影奉置所	市町村指定								○	
函館市	函館山と砲台跡	道遺市資		○							
		計		4	9			9			2
青森県 (4)	青森市	幸畑陸軍墓地	市町村指定						○		
	青森市	陸軍歩兵第5連隊第2大隊遭難記念碑	市町村指定								○
	弘前市	陸軍第8師団偕行社	国指定	○							
	弘前市	陸軍第8師団官舎	国登録	○							
		計		2					1		1
宮城県 (1)	仙台市	陸軍第2師団歩兵第4連隊兵舎	市町村指定	○							
		計		1							
福島県 (1. 1増) ☆	西郷村	陸軍省軍馬補充部白河支部跡	市町村指定		○						
		計			1 (1増)						
栃木県 (1)	宇都宮市	陸軍第66歩兵連隊倉庫	国登録		○						
		計			1						
群馬県 (4)	高崎市	高崎陸軍元ロシア人兵士墓地	市町村指定						○		
	長野原町	防空監視哨	市町村指定		○						
	みどり市	東村防空監視哨	市町村指定		○						
	渋川市	敷島小学校奉安殿	市町村指定								○
		計			2				1		1
埼玉県 (1)	深谷市	東京第2陸軍造兵廠深谷製造所給水塔	国登録			○					
		計				1					
千葉県 (19. 2増)	千葉市	陸軍鉄道第1連隊材料廠	県指定								○
	習志野市	陸軍鉄道第2連隊正門	国登録								○
	習志野市	陸軍演習場内園壁	国登録		○						
	館山市	海軍航空隊地下要塞赤山地下壕	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群弾薬庫①	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群弾薬庫②	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡①	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡②	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡③	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群観測所跡	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群掩灯所	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群探照灯格納庫	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群発電所	市町村指定		○						

	南房総市	大房岬要塞群火薬庫	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群射の場	市町村指定		○						
	南房総市	大房岬要塞群魚雷艇発信所	市町村指定		○						
	いづみ市	桜花43乙型格納庫・旋回盤	市町村指定		○						
☆	松戸市	旧陸軍工兵学校歩哨舎	市町村指定	○							
☆	松戸市	中央公園正門門柱(旧陸軍工兵学校正門門柱)	市町村指定	○							
			計	2(2増)	15					2	
東京都(16.3増)	千代田区	近衛師団司令部庁舎	国指定	○							
	板橋区	圧磨機庄輪記念碑	市町村登録			○					
	豊島区	鍋木久一家旧蔵軍事郵便文書	市町村登録								○
	豊島区	片野歌子家旧蔵配給切符・通帳類文書	市町村登録								○
	江東区	竹橋事件処刑場跡	市町村登録								○
	江東区	中島練兵場跡	市町村登録								○
	江東区	明治校戦災碑	市町村登録			○					
	江東区	南砂戦災殉難者慰霊六地藏	市町村登録						○		
	江東区	法華経供養塔	市町村登録						○		
	東大和市	日立航空機立川工場変電所	市町村指定			○					
	八王子市	八王子空襲記録写真原版	市町村指定								○
	武蔵村山市	東京陸軍幼年少年飛行兵学校正門跡	市町村指定	○							
	府中市	陸軍調布飛行場白糸台掩体壕	市町村指定		○						
☆	小金井市	陸軍技術研究所境界石杭	市町村登録	○							
☆	東村山市	陸軍少年通信兵学校	市町村指定	○							
☆	福生市	福生市福生第一国民学校防空日誌	市町村指定								○
			計	4(2増)	1	2	1		2		6(1増)
神奈川県(13)	横須賀市	海軍軍港水道走水水源煉瓦造貯水池	国登録						○		
	横須賀市	横須賀軍港水道走水水源地鉄筋コンクリート造浄水池	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場ベンチュリメーター室	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場配水池入口①	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場配水池入口②	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場緩速濾過池調整室①	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場緩速濾過池調整室②	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場緩速濾過池調整室③	国登録						○		
	横須賀市	逸見浄水場緩速濾過池調整室④	国登録						○		
	横須賀市	旧横須賀重砲兵連隊営門	道遺市資		○						
	横須賀市	逸見波止場衛門	道遺市資		○						
	相模原市	陸軍通信学校将校集会所	市町村登録	○							
	相模原市	陸軍通信学校将校集会所庭園	市町村登録	○							
			計	2	2				9		
新潟県(1)	上越市	陸軍第13師団師団長官舎	市町村指定	○							
			計	1							
石川県(3)	金沢市	陸軍第9師団兵器庫	国指定		○						
	金沢市	陸軍第9師団司令部庁舎	国登録	○							
	金沢市	陸軍金沢偕行社	国登録	○							
			計	2	1						
山梨県(2)	甲府市	甲府第49連隊糧秣庫	国登録		○						
	南アルプス市	ロタコ(御勅使河原飛行場跡)3号掩体壕	市町村指定		○						
			計		2						
静岡県(3)	静岡市	清水区禅叢寺本堂扁額	市町村登録								○
	一宮市	旧起第2尋常小学校奉安殿	国登録								○
	浜松市	引佐町凱旋記念門	国登録								○
			計								3
愛知県(7)	名古屋市	乃木倉庫	国登録		○						
	豊橋市	陸軍第15師団司令部庁舎	国登録	○							
	半田市	中島飛行場半田製作所衣糧倉庫	国登録			○					
	尾張旭市	旭兵器製造本社事務棟	国登録			○					
	犬山市	明治村名古屋衛戍病院	県指定	○							
	犬山市	明治村歩兵第6連隊兵舎	国登録	○							
	瀬戸市	法雲寺梵鐘	市町村指定								○
			計	3	1	2					1

三重県 (3)	鈴鹿市	北伊勢陸軍飛行場掩体	国登録		○				
	津市	寒松院被爆墓石	市町村指定			○			
	熊野市	紀和町英国兵捕虜墓地	市町村指定					○	
			計		1		1		1
京都府 (14)	京都市	外務省東方文化研究所	国登録	○					
	京都市	近鉄淀川橋梁	国登録						○
	城陽市	久津川軍塚古墳・掩体壕	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴鎮守府水道施設	国指定				○		
	舞鶴市	神崎赤煉瓦ホフマン窯	国登録			○			
	舞鶴市	海軍鎮守府水源地堰堤	国登録		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠予備艦兵器庫	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠弾丸庫並小銃庫	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠雑器庫並預兵器庫	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍需品倉庫 (電気庫)	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍需品倉庫 (第1水雷庫)	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍需品倉庫 (第2水雷庫)	国指定		○				
	舞鶴市	舞鶴海軍需品倉庫 (第3水雷庫)	国指定		○				
		計		1	10	1		1	1
兵庫県 (1)	姫路市	第10師団兵器庫	国登録		○				
		計			1				
鳥取県 (2)	浜田市	歩兵第21連隊雨覆練兵場	国登録		○				
	浜田市	歩兵第22連隊雨覆練兵場	国登録		○				
		計				2			
岡山県 (1)	岡山市	陸軍第17師団司令部衛兵所	国登録		○				
		計			1				
広島県 (10, 2増)	広島市	原爆ドーム	国指定				○		
	広島市	広島陸軍糧秣支廠詰工場	市町村指定			○			
	広島市	日本銀行広島支店	市町村指定			○			
	呉市	海軍呉鎮守府司令長官官舎	国指定	○					
	呉市	海軍工廠塔時計	市町村指定			○			
	呉市	入船記念館東郷家住宅離れ	国登録					○	
	呉市	宮原浄水場低区配水池	国登録					○	
	呉市	水道局二河水源地取入口	国登録					○	
	呉市	平原浄水場低区配水池	国登録					○	
	呉市	本庄水源地堰堤水道施設	国指定					○	
		計		1		6 (2増)		1	2
徳島県 (2)	鳴門市	板東俘虜収容所安芸家バラツケ	国登録					○	
	鳴門市	板東俘虜収容所柿本家バラツケ	国登録					○	
		計							2
香川県 (3)	普通寺市	普通寺陸軍第11師団偕行社	国指定	○					
	普通寺市	普通寺陸軍第11師団司令部庁舎	国登録	○					
	普通寺市	普通寺陸軍第11師団兵舎棟	国登録		○				
		計		2	1				
高知県 (1)	南国市	海軍高知航空隊掩体壕群	市町村指定		○				
		計			1				
福岡県 (1)	行橋市	稲童1号掩体壕	市町村指定		○				
		計			1				
長崎県 (6)	長崎市	大浦天主堂	国指定				○		
	長崎市	平和公園	国指定				○		
	長崎市	山王神社の大楠	市町村指定				○		
	島原市	からゆき塔女のドーム	市町村指定				○		
	佐世保市	海軍佐世保鎮守府凱旋記念館	国登録						○
	大村市	第21海軍航空廠本部防空壕	市町村指定		○				
		計		1		4			1
熊本県 (12, 4増) ☆	熊本市	田原坂公園	市町村指定				○		
	熊本市	明徳官軍墓地	県指定					○	
	熊本市	七本官軍墓地	県指定					○	
	熊本市	花崗山陸軍埋葬地	市町村指定					○	

	熊本市	旧輻重兵六連隊衛兵所	市町村指定	○						
	玉東村	高月官軍墓地	県指定					○		
	玉東村	宇蘇浦官軍墓地	県指定					○		
	南関町	城ノ原官軍墓地	県指定					○		
	南関町	肥猪町官軍墓地	県指定					○		
☆	玉名市	菊池飛行場給水塔	市町村指定	○						
☆	水俣市	陣内官軍墓地	県指定					○		
☆	和木市	下岩官軍墓地	県指定					○		
			計	2 (1増)		1 (1増)		9 (2増)		
大分県 (3)	宇佐市	城井1号掩体壕	市町村指定	○						
	宇佐市	高居地下壕	市町村指定				○			
	佐伯市	佐伯海軍航空隊掩体壕	国登録	○						
			計	2			1			
鹿児島県 (14)	薩摩川内市	天狗鼻海軍望楼台	市町村指定	○						
	始良町	山田の凱旋門	国登録							○
	南九州市	陸軍知覧飛行場給水塔	市町村指定	○						
	南九州市	陸軍知覧飛行場円形防火水槽	国登録	○						
	南九州市	陸軍知覧飛行場弾薬庫	国登録	○						
	南九州市	陸軍知覧飛行場着陸訓練施設鎮錠	国登録	○						
	瀬戸内町	古仁屋小学校旧奉安殿	国登録							○
	瀬戸内町	節子小学校旧奉安殿	国登録							○
	瀬戸内町	池地小学校旧奉安殿	国登録							○
	瀬戸内町	薩川小学校旧奉安殿	国登録							○
	瀬戸内町	須子茂小学校旧奉安殿	国登録							○
	瀬戸内町	旧木葱小学校旧奉安殿	国登録							○
	伊仙町	鹿浦小学校旧奉安殿	国登録							○
	大和村	今里小中学校奉安殿	国登録							○
			計	5						9
沖縄県 (15, 1増)	沖縄市	美里国民学校奉安殿	市町村指定							○
	沖縄市	美里国民学校忠魂碑	市町村指定					○		
	南風原町	南風原陸軍病院壕群	市町村指定	○						
	読谷村	座喜味掩体壕	市町村指定	○						
	読谷村	座喜味忠魂碑	市町村指定					○		
	読谷村	チビチリガマ	市町村指定				○			
	宜野座村	沖縄戦関連宜野座村歴史資料館	市町村指定							○
	うるま市	新川・クボクスク陣地壕群	市町村指定	○						
☆	本部町	本部監視哨跡	市町村指定	○						
	伊江村	公益質屋	市町村指定							○
	渡嘉敷村	旧日本軍特攻艇秘匿壕	市町村指定	○						
	渡嘉敷村	集団自決跡地	市町村指定				○			
	宮古島市	ヌーザランミ海軍特攻艇格納秘匿壕	市町村指定	○						
	石垣市	登野城尋常高等小学校奉安殿	市町村指定							○
	石垣市	名蔵白水の戦争遺跡群	市町村指定				○			
			計	1	5 (1増)		3		2	4

- ・第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会（主催戦争遺跡保存全国ネットワーク、2011年8月6-7日開催）配布資料18-19頁より作成。
- ・188件（前年比13件純増）の内訳は、全国30都道府県で、国指定文化財21件（1件増）、県指定文化財15件（2件増）、市区町村指定文化財79件（7件増）、国登録文化財57件（2件増）、市区町村登録文化財13件、道遺産・市民文化資産3件である。「☆」は、新しく追加された文化財。
- ・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市町村指」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市町村登」は市区町村登録文化財、「道遺市資」は道遺産・市民文化資産を指す。
- ・「類型」については、資料1の通り。

資料2 指定・登録ごとの戦争遺跡類型別数 (2011年7月現在)

指定・登録	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他	合計
国指定	5	10	1 (1増)	3	2				21 (11.2) (1増)
県指定	2	2			2	8 (2増)	1		15 (8.0) (2増)
市区町村指定	8 (2増)	39 (3増)	3	7 (1増)	6	6		10	79 (42.0) (7増)
国登録	7	15	6 (1増)		15		2	12	57 (30.3) (1増)
市区町村登録	3 (1増)	1	1	1		2		5 (1増)	13 (6.9) (2増)
道遺市資		3							3 (1.6)
合計	26 (13.8) (4増)	68 (36.2) (3増)	12 (6.4) (2増)	11 (5.9) (1増)	24 (12.8)	16 (8.5) (2増)	3 (1.6)	28 (14.9) (1増)	188 (13増)

- ・第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会 (主催戦争遺跡保存全国ネットワーク、2011年8月6-7日開催) 配布資料18-19頁より作成。
- ・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市区町村指」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市区町村登」は市区町村登録文化財、「道遺市資」は道遺産・市民文化資産を指す。
- ・「合計」の () 内は%
- ・「類型」については、資料1の通り。

資料3 秋田県の戦争遺跡とその類型化

所在地	遺跡	細目 (内容)	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他	
秋田市 (8件、 細目21件)	歩兵第17連隊関係跡地 (3)	手形練兵場跡地		○							
		陸軍病院跡地									
		兵舎跡地			○						
	土崎空襲関係遺跡 (12)	土崎南小学校内平和記念碑					○				
		三和興業供養碑							○		
		かもめ公園平和記念碑					○				
		平和を祈る乙女の像							○		
		土崎小学校内平和記念碑							○		
		土崎市民運動場内慰霊碑							○		
		新日本石油秋田油槽所内被爆倉庫					○				
		新日本石油秋田油槽所内受難碑							○		
		相楽緑町慰霊碑							○		
		光沼公園					○				
		旧日石社宅通り平和記念碑							○		
雲祥院首なし地藏					○						
*旧東北パルプ工場跡地				○							
*旧東北肥料秋田工場跡地				○							
宮田又鉦山跡地				○							
*満蒙開拓青少年義勇軍慰霊碑								○			
佐竹義暁公銅像									○		
赤十字救護員記念像			○								
		計	2	2	3	5		8		1	
男鹿市 (4件、 細目10件)	船川事件関係遺跡 (5)	華工管理所跡地 (諸井醤油店)		○							
		夏井倉庫			○						
		船川警察署跡					○				
		秋田銀行船川支店					○				
		船川港埠頭			○						
	なまはげ石段朝鮮人強制労働跡地					○					
	元船越小学校御真影奉安殿									○	
B29遭難事故関係 (3件)	B29遭難碑							○			
	慰霊標柱							○			
	平和の碑									○	
		計	1		2	3		2		2	
能代市 (2件、 細目4件)	東雲飛行場関係遺跡 (3)	東雲飛行場跡地		○							
		東雲飛行場慰霊碑						○			
	掩体壕跡			○							
*旧海軍輸送機不時着慰霊碑								○			
		計		2				2			

